

令和3年度 第1回福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会 議事録

日時：令和3年8月4日（水）17：00～18：00

場所：Web 開催

※議事録の文章は、実際の発言の趣旨を損なわない程度に、読みやすく整理したものです。

（司会）

定刻になりましたので、ただいまから、令和3年度第1回アレルギー疾患医療連絡協議会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、お集りいただきまして誠にありがとうございます。私は本日、司会進行を務めさせていただきます、がん感染症疾病対策 課長技術補佐の松田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。開会にあたりまして、課長の田中よりご挨拶申し上げます。

（がん感染症疾病対策課長）

福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課長の田中と申します。

本日は、大変お忙しい中、令和3年度「福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より、本県の保健医療行政に、ご指導、ご支援を賜り、重ねてお礼を申し上げます。

本協議会は、アレルギー疾患に係る診療連携体制の整備やアレルギー疾患対策の推進等についてご意見・ご協議いただく場として平成30年度に発足しました。

令和元年度には、委員のみなさまからご意見をいただき、「福岡県アレルギー疾患対策推進計画」を策定し、本計画に基づき、アレルギー疾患対策を総合的に推進しているところです。

さて、本日の議題でございますが、1点目は、福岡県のアレルギー疾患対策についてです。「福岡県アレルギー疾患対策推進計画」の初年度であります令和2年度の実績及び今年度、本県において実施を予定している取組についてご報告させていただきます。

2点目は、福岡県アレルギー疾患医療拠点病院業務についてです。平成31年4月1日付で独立行政法人国立病院機構 福岡病院を県拠点病院として指定させていただきました。昨年度は、県民の方からのアレルギー疾患に関する悩みや相談などに対応するため、新たに「福岡県アレルギー相談窓口」を福岡病院に開設しました。

また、医療従事者向け研修や食物アレルギー教室の開催など多岐にわたり取り組んでいただきました。今年度は、医療従事者向け研修等に加え、小学校向けの動画作成など、取組をさらに充実していただきます。このため、令和2年度の実績とともに、今年度の取組についてご報告をお願いしております。

そして、3点目は、医療機関調査についてです。昨年度開設した「福岡県アレルギー相談窓口」においては、多くの相談者から最寄りのアレルギー疾患の診療を行う医療機関の情報提供を求められます。このため、相談者に必要に応じて医療機関の情報を提供できるよう、アレルギー疾患医療に携わる医療機関について現況調査を拠点病院において実施いただいております。このため、本調査の概要をご報告させていただきます。

本日は限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(司会)

【配布資料の確認】

資料の不足等ございませんでしょうか。

それでは議事に入る前に、西間会長から話題提供をいただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

(西間会長)

お手元の資料1をご覧ください。直近にございました全国的なアレルギーに対する会議をご報告したいと思います。

まず一つは、都道府県アレルギー疾患医療拠点病院機能強化指標に関する研究というもので、7月8日にZoomによるオンライン会議がありました。この研究は、拠点病院の評価指標を作り拠点病院に配布し、その実態を把握・検討していくものです。つまり、拠点病院の中には、その実態がほとんどないところもあります。もちろん福岡県のように進んでいるところもありますが、進ませなければならぬところにはそれなりの後押しをする、そのために拠点病院の評価をしなければならぬということで、評価指標を作るために厚生労働科学研究費補助金事業としてスタートしたものです。今年スタートしたばかりですが、期間は1年間で来年の春には報告があります。

次に、同じく本年7月19日に日本アレルギー学会の事務局で行われました第2回災害対策合同委員会というものがあります。日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会の災害対策の委員長をしておられる富山大学の足立先生の元に行われております。これは日本アレルギー協会の方ですでに災害の拠点病院というものができておりますが、別に災害拠点病院として指定された病院(災害対策基本法に基づき都道府県知事が指定する病院)がありますが、災害拠点病院とどう連携をとっていか、災害のときにいろいろとアクセスするのに一定のものがないということで、おそらく日本アレルギー学会の一つにまとめるという形でこの研究が動いておりまして、来年度には報告があるという状況です。ですから、福岡県の場合には福岡県とアレルギー疾患医療拠点病院、災害拠点病院の3つをうまく合わせてわかるような形にするというふうになろうかと思えます。

それから3番目、7月29日に同じく東京で行われましたアレルギー疾患対策推進協議会です。これは、中央の協議会でありまして、新しい会長に日本アレルギー学会理事長の海老澤先生が決まりました。新しいメンバーも決まりまして、今後3回会議を行い、もうすでに1回終わりましたが、今後アレルギー疾患対策基本指針の中間見直しをどのように進めていくかという会議が行われました。

以上3つが中央の会議でございます。この3つの会議について何かご質問ありますでしょうか。

【特になし】

(西間会長)

それでは、会議次第に沿って、進めていきます。

報告事項1「福岡県のアレルギー疾患対策について」事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

(西間会長)

事務局の説明に関して、ご質問もしくはご要望はありませんか。

【特になし】

(西間会長)

それでは事務局にはこれに沿って施策を進めていてもらいたいと思います。

続きまして、報告事項2「令和2年度福岡県アレルギー疾患医療拠点病院事業実績及び令和3年度福岡県アレルギー疾患医療拠点病院事業計画について」拠点病院から説明をお願いします。

(吉田委員)

資料3-1をご覧ください。まず、相談対応につきまして、対象として福岡県在住の方でアレルギー疾患を持つ患者及び家族等を対象に窓口を開設しました。令和2年7月1日の開設です。相談の方法として、電話とメール、FAXでの相談受付を行っておりまして、電話が週2日それぞれ2時間、合計週4時間、メールとFAXは随時受け付けております。回答の流れとして、まずは福岡病院アレルギーセンター（以下、「センター」と言う）のスタッフが内容を聞き取ったあとに回答を行います。その回答としては、1週間以内に各科の専門医が電話で回答するというので、これは受付が電話でなくても回答は電話で統一しております。小児アレルギーエデュケーター（以下、「エデュケーター」と言う）が回答できるものについては、エデュケーターが回答しております。次に結果ですけれども、令和2年度の相談件数は合計で101件、7月1日からの9か月間ですので、1か月平均で11件あまりでございます。回答は、専門医とエデュケーターで行いますけれどもほとんどが各診療科の専門医が回答を行いました。理由としては、小児科へ保護者からのご質問も多々ありましたけれども、成人からの質問の方が多かったことで、エデュケーターでは対応が難しい質問が多かったためです。アレルギー科だけの回答が難しい場合は、呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、複数の診療科にまたがって相談し、回答をまとめた上で対応しました。問題点としましては、アレルギー診療の受診先に対して、回答がうまくできなかった事例がありました。特に問題になるのはアレルギー専門医がいない、居住地からアレルギー専門医のいる医療機関が遠い地域からのご質問に対して、どの医療機関を案内すればいいのか、診療・疾患に関してのご質問に対しては的確に回答ができたと考えておりますが、そういった問題が発生しました。これを受けまして、県内の医療機関への調査についても行う予定で計画が進んでいるところです。調査の内容については後ほど説明しますが、センターからアレルギー科等を標榜している医療機関にアンケートを行い、特に、追求したかったのが診療内容とともに、センターへ問い合わせがあったときに、紹介してもよいかどうかを含めて調査をしていて、受診先に関する問題についても解決していきたいと思っております。相談内容については、小児は成人より少ないと言いつつも件数としてはかなりありまして、食物アレルギーの質問が多かったのと、小学校や幼稚園の先生から給食に関する問い合わせが多かったということで、県内の給食の現状把握が必要であるというふうに考えました。

次にアレルギー疾患研修会についてです。新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン配

信で行いました。登録者数724名、集合開催よりも多い人数が登録されておりまして、e-learningシステムを構築し、6回に分けて配信しました。単なる講演を聞くだけにならないよう、興味を持ってもらうということで、第1回と第3回は司会者と発表者を交えて質疑応答など対談形式も含めて運営し配信しております。あとは参加者のモチベーションを保てるようにというのと、参加推進のため、修了証の発行や学会の単位申請も行えるようにしました。e-learningの最後には今後の改善に向けてアンケートを組み込んでいて、これを元に次年度さらによいものを作っていきたいというふうに思います。オンラインで配信することでメリットとしては、福岡市から遠いところにいる方にも情報提供ができることです。これは拠点病院の初年度である令和元年度のときに、福岡市近郊以外のところでこういう会を開いた場合に、非常にマンパワーとしても大変ですし、どういうふうに解決していくかということが議論されておりました。その解決法の一部ではありますが、こういったオンライン配信というのが、移動が難しく、来場が難しい方にも情報提供ができる方法だということがわかってまいりました。ですので、今後パンデミックが収束して集合開催ができるようになった場合でも、何らかの形で集合開催とこのオンライン配信というのを組み合わせてハイブリット形式でより情報が速やかに多くの人に行きわたるようにしていくというふうなヒントになったのではないかと思います。今回の配信で問題点として出てきたのが、事前案内が十分ではなかった回の参加者が大幅に減ってしまったということがありました。そこは計画的にメールの一斉配信などにより、漏れなく案内が行きわたるようにするというのが今後の改善点だと思います。その他には薬剤師や栄養士にも単位申請ができるようなことが望ましいと思っておりますので、そちらの方も働きかけたいというふうに思っております。総集編では、3回分ずつをまとめて配信することによって医師会の生涯教育制度の単位取得に対応できるようにいたしました。

次の情報提供のところですが、まずはホームページの開設について、センター独自のホームページを開設いたしまして、イベント情報、講習会の案内、その他に患者さん向けのお役立ち情報を掲載しております。市民公開講座に関しては、オンラインではなくてあえてフリーペーパーの紙媒体での作成・配布としました。その理由としては、例年この市民公開講座は集合開催のときも参加者が高齢の方が多かったということで、高齢だからということではありませんが、オンライン開催とするとネット環境にアクセスしにくい方が多分おられるのではないかと考えて、フリーペーパーの配布としました。なお、ネット環境にアクセスできる方に関しては、このフリーペーパーをホームページにアップしてダウンロードできるようにという対応をいたしました。フリーペーパーは図を多くしてわかりやすいものを作っております。次の食物アレルギー教室として、昨年12月にZoomで行いました。これは参加者が十分なネット環境にアクセスできるというふうに考えて準備しました。参加人数11名で、鹿児島県からの参加などありまして、今後これも集合開催が可能となった場合でもハイブリット形式にすることによって、遠方の方にも情報が行きわたるのではないかと考えて今後に生かしていきたいと思っております。

次のページに移りまして、アレルギー疾患に係る診断等支援につきまして、これも新型コロナウイルスの影響もあり、アレルギー疾患の講演に関しては、3件の依頼に対して実施できたのが1件、福岡県からの依頼で学校の先生に対して食物アレルギーに関する講演及びエピペンの実技指導を行いました。エピペン講習に関しても現地での開催、講演というものが難しく叶わなかったということで、実技動画をDVDにして送付するというような形をとりました。次に保健所への診療支援に関して、これも対面でのアレルギー相談を予定しておりましたが、集団健診自体が中止となったということ

もあり、開催が困難となったことから、健診の時に流せるような動画作成に変更しました。動画の内容としては、健診の時に相談の多かった質問、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎、そういったものに関して、一般の方にもわかりやすい内容でDVDを作り、今後の改善に生かすためのアンケートを同封して送付しております。その他アレルギー疾患に関しては、これまで質問の多かったアトピー性皮膚炎、スキンケア、服薬指導について、センターホームページにわかりやすい内容で掲示しまして、これはいつでも誰でも閲覧できるようなものとししました。

次に資料3-2をご覧ください。これは先月福岡病院で行われました病診連携会議で少しわかりやすくコンパクトにまとめたものです。先ほどの資料3-1と重複しますが資料としてつけております。令和2年度活動報告では先ほどお話したとおり、これまでの取り組みをまとめております。

次に令和3年度の取り組みについてご説明させていただきます。①アレルギー疾患患者や家族等に対する相談対応について、令和2年7月に開設しました相談窓口の続きですが、昨年度1か月平均10件ちょっとだったのが、若干相談件数が減り、今は7、8件となっています。特筆すべきは相談内容が大きく変わったということで、6月と7月は新型コロナウイルスワクチンに対するアナフィラキシーを含む副反応に関する相談が増加しております。これを受けまして7月から月曜日から水曜日にワクチン相談外来を完全予約制で開設しました。従前からの木曜日と金曜日はアレルギー科の新患枠で用意しているところです。

次が②アレルギー講習会について、先ほど昨年度のお話をしましたけども今年度も同じような規模で、可能な限り集合開催を目指して準備中ですが、残念ながら第1回はe-learning方式に変更して9月に実施予定です。第2回は11月、第3回は来年2月に会場で開催するように進めておりますが、感染流行状況によっては第1回と同じように変更を余儀なくされるかもしれないというような状況であります。

次に③医療機関調査です。これが相談窓口のところでは一番問題となったもので、紹介する医療機関をどうするかというところからきております。県へ届出がある医療機関にマークシート方式のアンケートを郵送して7月末までに回答を受け付けております。対象者へ紹介してよいか、あるいはさらに承諾いただければセンターホームページにリンクを貼るようなことを考えております。

最後に④アレルギー疾患に対する情報提供です。先ほどの昨年度の報告と同じように市民公開講座に関しては今年度もフリーペーパーを作成する予定で現在原稿を集めている状況です。エピペン講習に関しては、シミュレーション動画を作っているところであります。座学的な知識だけではなく実際にどういうことをやるか、対面ではできないけども極力それに近づけるようにということで準備中です。報告は以上です。

(西間会長)

ありがとうございました。副センター長の杉山先生も参加されておられますが、その他に拠点病院事業として何かございませんでしょうか。

(福岡病院 杉山医師)

アンケートの回答ですが、現在1,822件の回答をいただき、こちらで集計させていただいております。これを解析してまたご報告をさせていただきたいと思っております。

(西間会長)

ご報告いただいた中のアレルギー疾患患者や家族等に対する相談対応というものがありますけども、その中に相談内容内訳とあります。その中の分類の「その他」というのが11月は半分以上という、いわゆる食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹に当てはまらないものがこんなにたくさんある。この「その他」は何ですか。ワクチンのことですか。

(吉田委員)

これは、給食とかそういうものだったと記憶しておりますが副センター長どうでしょうか。

(福岡病院 杉山医師)

給食と薬物過敏症が入っております。

(西間会長)

こんなにたくさん「その他」があると、ある程度サブグループで分けてもらった方がこれからの役に立ちますね。

(福岡病院 杉山医師)

はい、わかりました。

(西間会長)

それから委員の先生方どうでしょうか。今のご報告で何かありますでしょうか。

(田中委員)

事業について大変詳しくご説明いただきありがとうございます。大変ご苦労されているのだと思います。1つ質問ですが、今ワクチンの問い合わせが多いということで、これは非常に理解できるところで、今から若い子どもたち、12歳以上の方も打っていくことになるので、現場でもこういう質問が多いんですけど、どのようにお答えになってらっしゃるのか、私たちがどんなふうに患者さんに言ってあげたらいいのか教えていただけますでしょうか。

(吉田委員)

副センター長の方からの説明が的確かもしれませんが、大きな流れとしては、アレルギー疾患は症例によって大きく対応や重症度が違ったりするということで、相談だけでなかなかはっきりしない場合には、患者さんをしっかりと診察した上で、それに見合った適切な対応をするというふうになってまいります。そういうふうな流れで、一言でこういうふうに対応しているというよりも少し手間はかかりますけども、一人ひとりの患者さんに個別に対応するというふうな流れになってくるのではないかと思います。副センター長の方から詳しくお願いしたいと思います。

(福岡病院 杉山医師)

私どもが参考としておりますのが、アレルギー学会が出しております指針の方なんですけども、こ

ちらでお聞きすることは、やはり薬剤で重篤なアレルギー症状があったのか、特に注射薬、ワクチン、そういったところで既往があるかどうかというのを一番聞くようにしております。それから原因がわからないアナフィラキシーを起こされた方、ポリエチレングリコール、ポリソルベートといったところなんです、そういったものでアレルギーの疑われる方というのはやはりリスクが高いものと考えております。しかし、一般的な例えばアトピー性皮膚炎や気管支喘息とかでやはりご不安な方が多いんですけども、アレルギー学会が出している指針ではそういったものというのは、通常のアナフィラキシーを起こすリスクとあまり変わらないというふうにされております。ただ、コントロールの悪い喘息に関しましては、やはりアナフィラキシーを起こした際に重篤化するリスクが高いというところで、そういったアナフィラキシーに対応できるところでの接種を勧められております。ですので、持っているアレルギー疾患に関しては、やはりアレルギーコントロールの良い状態で、蕁麻疹もアレルギー性でなかったとしてもそういったところのコントロールをした上で、長めの経過観察を設けていただくようにはお話しするようにしております。

(田中委員)

ありがとうございました。私たちがしているのは、集団接種ではなくて、医療機関でちゃんとした対応ができる場所でされたらどうですかというふうに伝えておりますが、それでよろしいですね。

(福岡病院 杉山医師)

はい。

(西間会長)

最も無難な方法ですね。日本アレルギー学会の分は更新していきますので、時々眺めてください。このワクチンへの対応に関して Q&A で出すとなるとやはり難しいんですよ。個々の症例で違うでしょう。それと少しずつ微妙に変わっていきますからなかなか Q&A では出しにくいというのがあります。

他の委員の先生方どうでしょうか。福岡は岡田健司先生というワクチンに非常に詳しい先生がおられますので、その先生の知恵も全部入りますからそういう意味ではやりやすいと思います。よろしいですか。

それでは続きまして、報告事項3「アレルギー疾患に係る医療機関調査について」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

(西間会長)

集計解析はいつ頃終わる予定でしょうか。我々委員の方にこういう形が出たけどもこれで出してよろしいかとするのはだいたい目途としていつぐらいでしょうか。

(福岡病院 杉山医師)

週明けに（業者へ）発送させていただきまして今月中には結果は帰ってくると思います。なので、9月末までにはします。

（西間会長）

結構影響がありますし、皆さん見たいところだと思いますので。まずは県の方にこういう形ですがというところできっかりと練って公表するようにお願いします。

（福岡病院 杉山医師）

公表前に相談させていただきたいと思います。

（西間会長）

県の方はそういう形で進めていく形でよいでしょうか。

（事務局）

はい。

（西間会長）

他にこれについてご意見はありますか。これは非常に重要なところでちょうど今、全国各県でほとんど拠点病院は決まってきましたけども、今度はそのあとに拠点病院から次のいろいろな医療機関、ならびに薬局も含めて、そういったいろいろな関係のところとのネットワークを作っていかなければならないところです。拠点病院だけがとびあがっていてもしょうがないので。あとはそれぞれの地域が例えば久留米とか北九州とかそういうところでのネットワークもしっかりと作っていかなければならないので、このデータは非常に重要です。全国的にも次のフェーズに入るためにどうなっているのかという質問が患者団体の方からも結構出ています。よろしくお願いします。

他にはこれについてのご質問はありませんでしょうか。

全体を通じて何かご質問やご要望ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは事務局にお返しします。

（司会）

西間会長、急遽の Web 開催にも関わらずスムーズに進行していただきましてどうもありがとうございます。また、急遽 Web での開催となりまして、資料共有ができないなど、進行に不備がありまして申し訳ございませんでした。次回 Web 開催という形になりましたらその辺は改善していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

そして委員の皆様方におかれましては、いろいろご意見いただきありがとうございました。今回出ました意見等、西間会長からネットワークのお話も出ておりましたけどもいろいろなことを次回に向けて事務局の方でも検討してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

これをもちまして、令和3年度第1回福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会を終了させていただきます。